

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001)		
	横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成31年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和4年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの理念である「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日取り組んでいます。 ・季節の行事、誕生会、外食、ホーム近辺の散策、町内の餅つき、敬老会や盆踊り大会等のイベントに参加し、外の空気に触れて、地域の方々とふれあい、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。 ・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、速やかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なされた方には、十分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。 ・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援をこころがけ、実践しています。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年3月20日	評価機関 評価決定日	令和1年11月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、JR根岸線根岸駅からバスで10分、バス停から徒歩5分の住宅地に位置し、通りを挟んだ向かい側にはスーパーマーケットがある。鉄筋3階建ての建物の2階と3階を利用した2ユニットの事業所で、1階は同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と厨房になっている。法人はグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所などを運営し、地域の福祉の拠点としての役割を果たしている。</p> <p>【医食同源の考えを実践している】 法人理念の「おいしく食べて心も体も健康に 認め合って、支え合ってその人らしさを大切にします」に基づいて支援している。1階厨房の調理専門職員が献立・調理を担当し、美味しく新鮮な食材にこだわり、利用者の好みに合わせ、栄養バランスの取れた美味しい食事作りに努めている。メニューも豊富で、季節に応じた行事食を楽しむこともある。利用者の要望でラーメン、餃子、手打ちうどんなど職員と一緒に手作りし、味噌づくりもしている。医食同源の考えは開設以来、事業所の大きな特徴となっている。</p> <p>【職員の主体的な活動】 職員は、利用者の人格や意向を尊重した言葉がけや介護を心がけ、傾聴と見守りを重視して利用者の個性を大切にされた支援をしている。利用者の機能の維持向上に努め、職員手作りの脳トレーニングのゲームやキャップパズルなどで楽しみ、清掃や洗濯物たたみ、食器洗いなどの生活リハビリにも力を入れている。職員は利用者の声を活かして毎月ドライブに出掛けるなど多くのイベントを計画している。職員の描いた利用者の似顔絵や手作り作品が飾られたリビングやダイニングで、利用者と職員が明るく笑顔で会話して、職員のチームワークにより家庭的な雰囲気の中で利用者支援している。</p> <p>【地域との緊密な連携】 丸山第一町内会に加入し、餅つき大会、夏祭り、盆踊り、敬老会などに参加している。夏祭りにはお神輿が事業所前に来訪し、事業所はバザーを開催し、利用者が店番をして地域の方と交流を図っている。町内会が開催している「ふれあい喫茶」に管理者が参加して地域の高齢者と交流し、自治会とは緊密に連携している。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアにつなげています。	理念は開設当時の社長と統括責任者、管理者、職員が作成したものである。職員は「医食同源」と「その人らしさを大切に」を常に意識し支援している。理念は各フロアの事務所に掲示し、フロアミーティングやリーダーミーティングで確認している。管理者はまず職員が笑顔でなければ利用者は明るく元気になれないと常に話し、率先垂範している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様は、地元の方も多く、餅つき大会、夏祭り、敬老会に参加し、親しくしていた方に声をかけていただいたりと交流が続いています。	丸山第一町内会に加入し、餅つき大会、花見、夏祭り、盆踊り、敬老会に参加している。夏祭りではお神輿が事業所前に来訪し、事業所はバザーを開催し、利用者が店番をして地域の方と交流している。「ふれあい喫茶」に管理者が参加し、地域の高齢者と交流し、地域ボランティアのフラメンコを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域との交流の際に、日頃のケアの中から得た事等を具体的に発信し、地域の方々が気軽に訪問して、相談窓口となる様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開き、近々の活動状況をお伝えし、地域の方、ご家族から出された意見やアドバイスを伺い、サービスの向上に役立てています。	2ヶ月毎に開催している。メンバーは町内会役員・民生委員・地域包括支援センター職員・利用者・家族・管理者・職員である。事業所の活動報告、行事案内、事故報告、地域情報などについて意見交換している。地域の夏祭りや、正月の餅つきの手伝いの要請があり対応している。	運営推進会議に利用者家族の参加が少なく、家族の意見や要望が出にくい状況です。事前の案内や行事と合わせて実施するなど工夫されることを期待します。

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の際には、地域包括支援センターの方に、毎回ご参加いただき、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導をいただき、連携することの大切さを学ばせていただいています。</p>	<p>磯子区高齢障害支援課が窓口である。生活保護費受給の相談で生活支援課と連携しており、2ヶ月毎に相談員の来訪がある。管理者が横浜市グループホーム連絡会の役員で行政や他の事業者と情報交換したり、「エンゼルケア」研修の講師の紹介などを行っている。磯子区ケアマネジャー連絡会の研修に参加し、地域包括支援センターとは研修や空き室情報の問い合わせ、利用者紹介などで連携している。</p>	
---	---	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならない時は身体拘束（施錠、ベルト、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できるようにミーティングで話し合いをします。	身体拘束廃止について、契約書に明記している。研修は事例を通して管理者がフロアミーティングなどで実施している。フロアの入口は開放しているが、玄関は安全のため施錠している。スピーチロックについては、日常的に管理者が指導している。「待つて」も拘束にあたるため利用者本人への十分な説明が必要であることを周知している。車椅子の方も、昼食時や午前と午後に定期的に椅子に移乗している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をスタッフもうける機会が増え、意識が高まりつつあります。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が各フロアにいらっしゃり、制度についての知識が浸透しつつあります。必要とおもわれる方、関心をもたれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている、	契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。</p>	<p>家族の来訪時や、3ヶ月毎に介護計画書を送付する際に、利用者の近況を同封し、要望を聞くようにしている。来訪の少ない方には電話で連絡している。職員は日常のケアの中で利用者の意見や要望を聞いている。家族からは個別の支援についての相談はあるが、運営についての意見は出ていない。利用者が病気になった時の対応などについての要望が出ており、緊急時は事業所に対応するが、それ以外は家族で対応することになっていることなど説明している。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングやリーダーミーティングで議題にあげて皆で検討します。	朝夕の引継ぎ時や、フロアミーティングやリーダーミーティングなどの会議で意見や要望を聞いている。引継ぎは「業務日報」や「個別記録」などの記録をもとに個別に行っている。備品の購入要望や日常の支援についての要望が多くあり、できる限り対応している。管理者には意見を言いやすく、常に話し合っている。人事評価の面接時に意見や要望を聞く機会もある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入し勉強会や他のグループホームとの交換実習に参加して、お互いの良かった点、改善すべき点を学びながら交流しています。同法人内での交流や情報交換は日頃から活発に行われています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しくいらした場所が安心できる所だと思っただけのように、お声かけをおこなったり、お話をじっくりと伺い不安な要素を取り除く様になっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことが解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くこともあり、入居前に利用なさっていた地域の美容院や馴染みの店、通院等はつながりを切らないようにしています。	前の職場の友人や、以前住んでいた近所の方の来訪がある。家族対応で馴染みの美容室に行ったり、墓参り、正月に帰宅する方、外食に出掛ける方がいる。今までの習慣を継続させて、新聞を購読する方や家族の同意のもとノンアルコールビールを入浴後に飲む方もいる。趣味の短歌を詠んだり、般若心経を唱える方もいる。ぬりえを楽しむ方やブローチやスカーフなどでおしゃれを楽しむ方もいる。個別支援で事業所の通りを挟んだ向かい側にあるスーパーマーケットに買い物に行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方に面会に行ったり、その後の様子をご家族から知らせていただいたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価		
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の思い、意向を伺い、出来る限りこれにそえる様に努め、介護計画変更時に記載して全職員が把握できる様にし、また、これまでの言動等から類推し思いや意向にそえる様に検討・実行を行っています。	入所時のアセスメントや、日常の支援の中で把握している。3ヶ月毎のモニタリングに合わせて計画作成担当者が利用者の要望を聞いている。入浴時や散歩など1対1の場면을大切にしている。発語が困難な方には、職員が家族から話を聞いたり、利用者の行動や表情から推定・類推して意向を把握するよう努めている。ラーメンや餃子など食べたいものの要望に応じている。ドライブで花見をしたり、髪の毛が伸びたので散髪に行きたいとの要望があり、訪問理容を利用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のファイルがいつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者様の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、其々の個性に合った対応を行い、尊厳を大切にされたケアに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者さまのさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握出来る様に努めています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者さま、ご家族の思いや意向を伺い、現状にそくした暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録にも載せ、ケアに反映させる様にし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。</p>	<p>入所時にアセスメントを行い、暫定の介護計画書案を作成している。1ヶ月様子を見て、利用者の声を直接聞き、本音を聞き出し、家族の要望も取り入れて介護計画書を作成している。医師や看護師の意見も「在宅医療診療記録」や「往診ノート」で確認し反映させている。計画作成担当者は職員からも意見を聞いて全員参加で介護計画書を作成している。3か月ごとに見直し、変化のある時はその都度見直している。「個別記録」の上段に介護計画書の目標を記載し、日常の支援と連動させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画が分かり易く記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立てています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生まれ育った地域とのつながりが切れないように地域の情報を集めて、催し物等は可能な限り参加できるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できるように協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供をおこなっています。	今までのかかりつけ医を利用している方が3名おり、精神科や心臓疾患のため循環器科などを家族対応で受診している。協力医は内科、外科、整形外科、胃腸科、脳神経外科である。往診医が月2回来訪している。歯科医が3ヶ月毎の定期検診のほか、利用者の要望があればその都度往診している。皮膚科や眼科の往診もある。訪問看護師が毎週来訪して健康管理をしている。訪問マッサージ師を利用している方が3名いる。受診内容については「在宅医療診療記録」や「往診ノート」に記入して情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」に基づき家族に説明している。終末期になった場合には家族・医師・看護師・事業所で話し合い、看取りを希望する場合には同意書をもらい対応している。毎年、法人で講師を招き「エンゼルケア」の研修をしている。今まで1名の看取りを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、ご利用者様の急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、今後もミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、全職員が参加できるように工夫しています。火元、時間帯、状況と想定を変えて訓練に臨み、地域の役員、民生委員、主任ケアマネ、ご家族にも参加していただいています。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の立ち合いがあり、5月は夜間を想定、11月は昼間を想定した訓練を実施している。運営推進会議を利用しての訓練で、地域包括支援センター職員や町内会役員などの参加がある。反省会は運営推進会議で実施し、消防署の方も参加し、参加者全員で総括している。訓練は1階の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に実施している。利用者は全員参加して体験している。家具の転倒防止や窓ガラスの飛散防止などは法人が対応している。事務所にはヘルメットが用意され、備蓄は飲料水や非常食などが3日分あり、熱源としてカセットコンロも確保して、備蓄チェック表で管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、心のこもった丁寧な声掛けを行い、入浴や排泄の際は、ご本人の意思を大切にして支援を行っています。	入浴時や排泄時には声掛けに注意し、周りに気付かれないようにしている。言葉遣いについては管理者がその都度指導している。入室の際にはノックをして、声をかけてから入るようにしている。法人がプライバシーや人権などに関する研修を入職時に実施しているが、フロアミーティングなどでも周知している。職員は利用者をさん付けで呼んでいるが、利用者の希望に応じて通称で呼ぶこともある。個人情報を含む書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止め、ご自身に物事を決めていただけるようにしています。また、ご自身の思いや希望を表しにくい場合は、日常の言動から職員が推測しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の体調やペースに合わせて生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただき、洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等常に、清潔、整容を心がけています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにする等工夫し、配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にいき、手際の良さを発揮されています。</p>	<p>献立は利用者や職員の要望を取り入れて、1階厨房の調理専門職員が作成している。食材は業者に委託している。ごはんのみそ汁は当番で職員が作り、味噌汁には職員各々のこだわりがある。食事は利用者、職員からも美味しいと好評である。きざみやとろみ食など個別に対応している。利用者は盛り付けや後片付け、食器洗いなどできる事をしている。職員も同じものを食べながら介助している。寿司やステーキハウス、洋食屋、ファミリーレストランに行くこともある。ピザの出前を取ったり、クリスマスにはケーキを頼んでいる。おせちは厨房で作ったものを職員が重箱に詰め替えて提供している。ラーメン、餃子、手打ちうどん、てんぷらなどを職員と一緒に作り、味噌づくりもしている。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がっていただいたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物をすすめた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	排泄パターンを把握してトイレ誘導し、自立を促している。トイレは各フロア3ヶ所で車椅子対応である。布パンツを利用している方は4名で、他の方はリハビリパンツとパッドを使っている。全介助の方が1名でベッドでパッド交換を行っており、夜間も3回のパッド交換と体位変換を行っている。他の方は夜間もトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、十時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>原則として週2回の入浴を行っている、体調、身体状況に合わせて、シャワー浴をとりいれたりし、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。</p>	<p>週2回、午後の入浴を基本としている。要望があればその都度対応している。入浴を好まない方は職員を替えたり時間を変えて対応している。体調に応じてシャワー浴や清拭などに変更することもある。同性介助にも対応している。入浴剤を使用して気分転換することもある。浴室や脱衣所にはエアコンとガス暖房器具があり、ヒートショック対策をしている。入浴後は水分補給のために希望を聞いて、ジュース、ノンアルコールビール、珈琲、日本茶などを提供している。</p>	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご利用者様のリズムに合わせ、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つことによって張り合いのある暮らしが出来る様にしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方の協力をいただき、出来る限り、ご本人の希望に沿って、戸外にでかけたり、外食、地域の行事への参加、散歩等に出かけられる様に支援しています。	天気の良い日には事業所裏にある公園や、やや離れている桜のきれいな丸山公園などに車椅子の方も含めて出掛けている。近くのスーパーマーケットに買い物に行く方や地域の行事に参加する方もいる。外食にも出かけ横浜や川崎、横須賀にドライブに行くこともある。その際には1階の同法人の小規模多機能型居宅介護事業所のワゴン車を借りて出掛けている。家族と一緒に外食や外出に行く方もいる。個別支援で買い物や外出にも出掛けている。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は所持していただき、支援が必要な方には行事、外出等のときに、ご自分で支払が出来る様にお手伝いしています。		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなかった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒に、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	リビングとダイニングに分かれており、利用者は好きな場所でくつろいでいる。リビングの壁には桜の木の切り絵が貼られており、季節感がある。ダイニングには手作りのカレンダーや職員が描いた利用者の似顔絵などが飾られ、職員と利用者の明るい笑顔と楽しい会話があり、家庭的な雰囲気である。廊下の壁には行事の写真や手作りの作品が飾られている。共有スペースは職員が清掃し、加湿器、空気清浄機などが設置されている。洗面所が2ヶ所で車椅子対応である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめる様に環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用様に馴染みの深い物、使い慣れた家具、飾っておきたい物等をご持参いただき、好みに合った物の中で安心して過ごしていただけるようにしています。	居室はエアコン、カーテン、照明、フットライト、クローゼットが備え付けられている。利用者はベッド、机、椅子、テレビ、家族の写真、仏壇、手作りの提灯など馴染みのものを持ち込んでいる。清掃はできる事を利用者が行っており、職員がフォローしている。ドアには利用者の似顔絵と表札が飾られている。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見やすいネームプレートを掛け、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにし、ご利用者様の力を活かしています。		
----	---	---	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHみのり丸ちゃん・山ちゃん

作成日 2019年 11月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6 7	身体拘束、虐待の防止の徹底	身体拘束、虐待に対する正しい理解	身体拘束廃止委員会（1回/3M）開催。 研修記録を書面に残し、職員に周知及び共有を行う。	12ヵ月
2	10	運営推進会議への、ご家族の出席	ご家族に、運営推進会議への出席をお願いし、運営に関する意見、その他をいただき、協力を仰ぐ。	ご家族来所の機会。電話、書面を通じ、運営推進会議への参加をお願いします。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。